

その戦功を賞して當知行を安堵せしむ。

【氣多神社文書】 羽昨郡

一三七一

去年以來籠城由。然者氣多社祝尸司・左神主兩職買得田畠等、當知行不可有相違之狀如件。

弘治貳 十二月朔日

義綱 在判

王子孫七郎殿

弘治三年 丁巳 紀元二二一七

正月廿三日。能登守護畠山義綱、長又次郎に、先年籠城中借用したる知行米を還付す。

【長文書】

一三七二

今度籠城中馳走祝着候。然者先年爲兵糧借用候百俵返置候。如前々都合貳千俵永全可有知行候。恐々謹言。

弘治三 正月廿三日

義綱 在判

長 又次郎殿

(この長氏は、加賀藩の老臣となれる長氏の陪隸と

なれるものなり。

二月十八日。能登守護畠山義綱等、長尾景虎に援軍の派遣を求む。

【上杉家文書】

一三七三

重而差下飛脚候。今度者返札共、種々入魂之趣難申謝候。誠累代無別義效祝着候。當城彌堅固候。可被心安候。始末度々申越候條不續陳候。仍糧米儀可有扶助之由。先以士卒覺悟旨此事候。兎角其國任計策候。以助勢可屬本意外、別條無之候敷。渡海少茂及穩波候者、急度加勢段憑入候。猶以別紙條々申越候。委細遊佐美作守可申候。恐々謹言。

弘治三年 二月十八日

義綱 在判

長尾彈正少弼殿

【杉本文書】 越中

一三七四

急度差下飛脚候。仍當城之儀入魂可有悦喜候由、景虎

被申越候。○糧米可有扶助由、先以士卒覺祝著候。兎角其國任計策候。以助成可屬本意外別條無之候。渡海少茂及穩波者、早速加勢頼候旨申越候。馳走肝要候。猶遊佐美作守可申候。穴賢。

弘治三年 二月十八日

義綱 在判

山口修理亮殿

德祐 在印

山口修理亮殿

【上杉家文書】

一三七五

猶々金臺寺ニ委細被申越候キ。被示合歸國奉待候。去比御返答、御入魂之至不知所謝候。當陣于今相替義無之候。仍糧物御請之段、先以喜悅之事候。隨而御加勢之一儀、其國信劬御行仁付無御同意之段、無余儀次第候。雖然以龜鏡計、不依多少一勢可得加助之旨、直書并以一書被申入候條、早速於有御同心者、誠當家可爲再興之專一之由、猶相意得可申展旨候。恐々謹言。

弘治三年 二月廿三日

義綱 在判

弘治三年

二月廿七日。能登守護畠山義綱、笠松新介に、その戦功を賞して鳳至郡諸橋山中一圓を知行せしむ。

長尾彈正少弼殿

御宿所

【笠松文書】

一三七六

今度於所々、無比類働神妙候。就其諸橋山中一圓申付候。全知行肝要候。謹言。

弘治三年 二月廿七日

義綱 在判

笠松新介殿

(弘治二年十月十日の條参照。)

【笠松文書】

一三七七

就種々令馳走候、當知行諸橋山中恒例拾疋、并霞錢令免除候。永全可知行狀如件。

弘治三 六月廿四日

義綱 在判